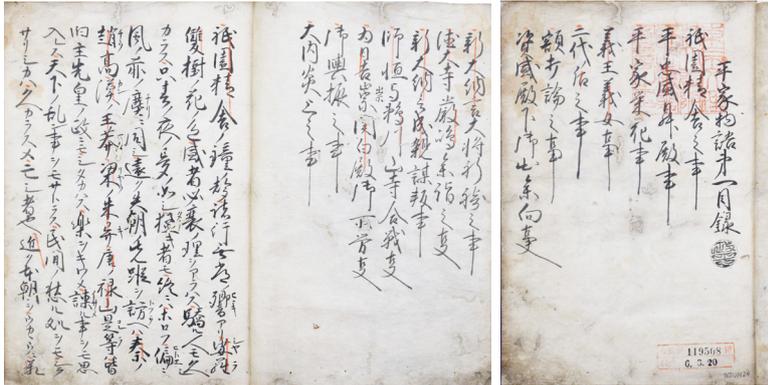


# 小特集◆平家物語を愉しむ

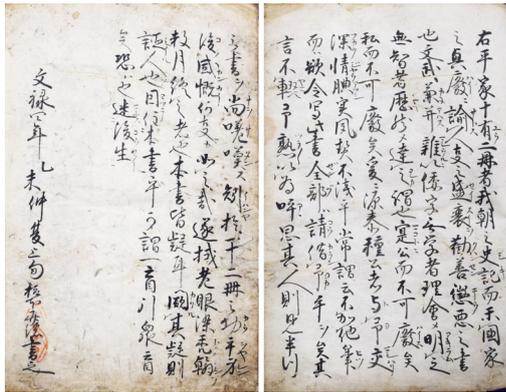
「祇園精舎の鐘の声」に始まる『平家物語』が軍記物語の傑作であることは言うまでもありません。平安時代末、平氏一門の栄枯盛衰を活写するこの作品は、語り物として、また、読み物として現代まで親しまれてきました。本小特集では、筑波大学附属図書館に所蔵されるその写本・版本の一部を紹介します。



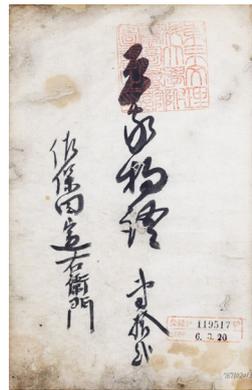
1 平家物語 (文禄本)  
12巻存10冊 文禄4(1595)年写  
榎本美濃が知人 源泰種に写し与えた写本で、巻10・11を欠く。八坂流の平曲が確立された室町時代初期における本文の古態を伝えるものとして著名な写本である。日本古典文学会による複製(ほるぷ出版, 1973-83年)があり、各種古典全集での校訂にも用いられている。〔請求記号 貴重書ル 140-48〕



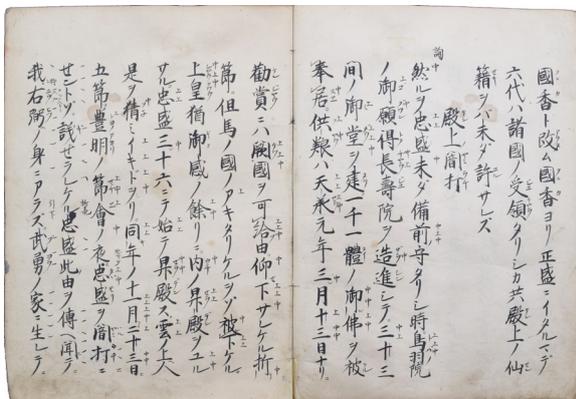
巻第1 (原表紙<上段>および目録~巻頭<下段>)



巻第12 (奥書)

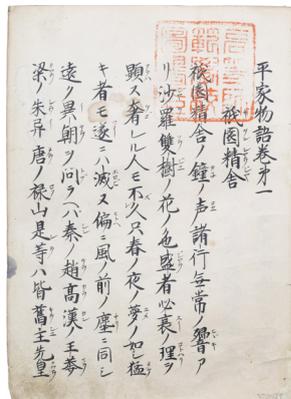


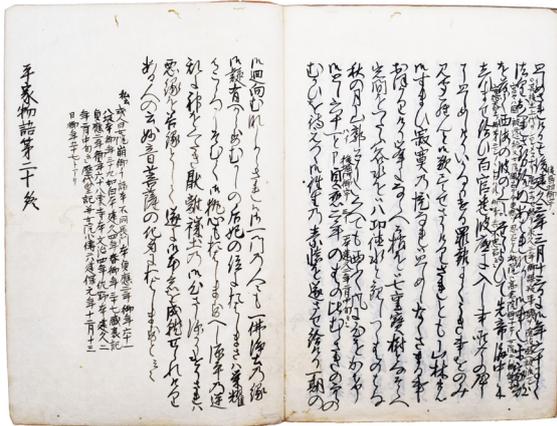
巻第12 (原表紙)



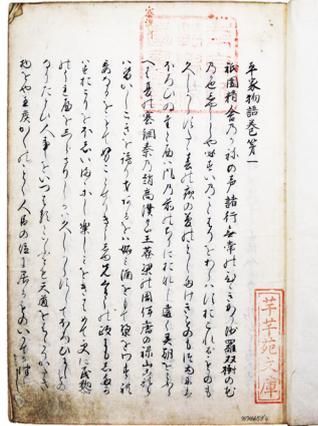
2 平家物語 12巻12冊 江戸時代中期写

平曲として室町時代末期から江戸時代初期にかけて使用された、一方流における現存最古の譜本と見られる。巻第1のうちの「殿上 闌討」から「願立」の12句に墨譜が付されている。綴葉装で、料紙には鳥の子紙が用いられている。図版は巻第1 (表紙および「祇園精舎」「殿上闌討」より)。〔請求記号 貴重書ル 140-12〕





巻第20 (巻末)

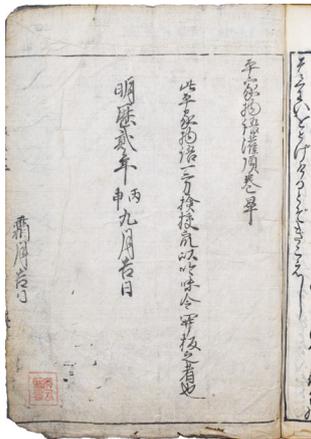


巻第1 (表紙および巻頭)

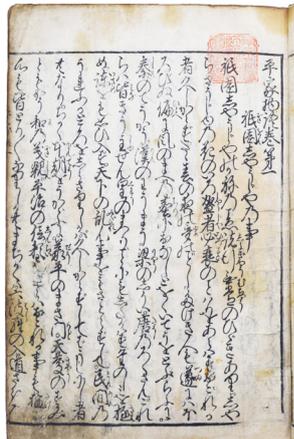


3 長門本平家物語 20巻20冊 江戸時代写

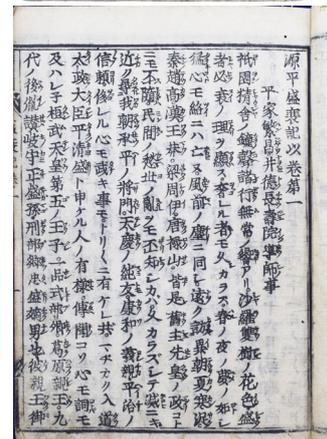
鎌倉時代前期の成立と推定される『平家物語』は南北朝時代ごろまでに増補改訂され、延慶本(6巻)、八坂本(12巻)、そして長門本(20巻)などの異本が誕生した。長門本の名称は、祖本が長門国赤間関(山口県下関市)の阿弥陀寺旧蔵本であったことに拠る。本書には他の諸本と校訂した形跡も見受けられる。 [請求記号 ル140-17]



巻第12 (奥書)



巻第1 (「祇園しやうじやの事」)



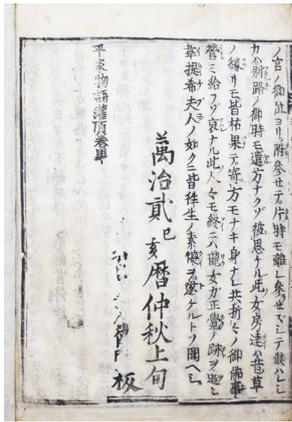
巻第1 (「内裏炎上之事」挿絵) 巻第1にのみ挿絵がある。

5 平家物語 12巻12冊 明暦2(1656)年刊

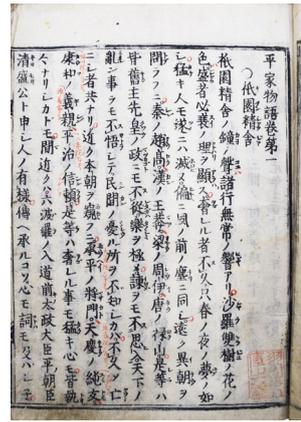
本学所蔵本のうち最古の刊記を有する版本。江戸時代に流布した読み本は、建礼門院の晩年を描く灌頂巻を付す12巻本である。本文は草書体で、一方検校衆の吟味をもって開版したと記す奥書とともに、京都で江戸時代前期に出版された版本と特徴が共通している。 [請求記号 ル140-13]

4 源平盛衰記 48巻5冊 江戸時代刊

読み仮名は「げんべいじょうすいき」とも。『平家物語』の異本の一つで、さまざまな説話が加筆され、内容豊富な読み物である。陸軍文庫の旧蔵本である本書は、前身校の一つである図書館情報大学の演習用テキストとして使用されてきたもので、5冊に合冊されている。図版は巻第1(表紙および「平家繁昌并徳長寿院導師事」)。 [請求記号 913.434-G34]



卷第12 (卷末)



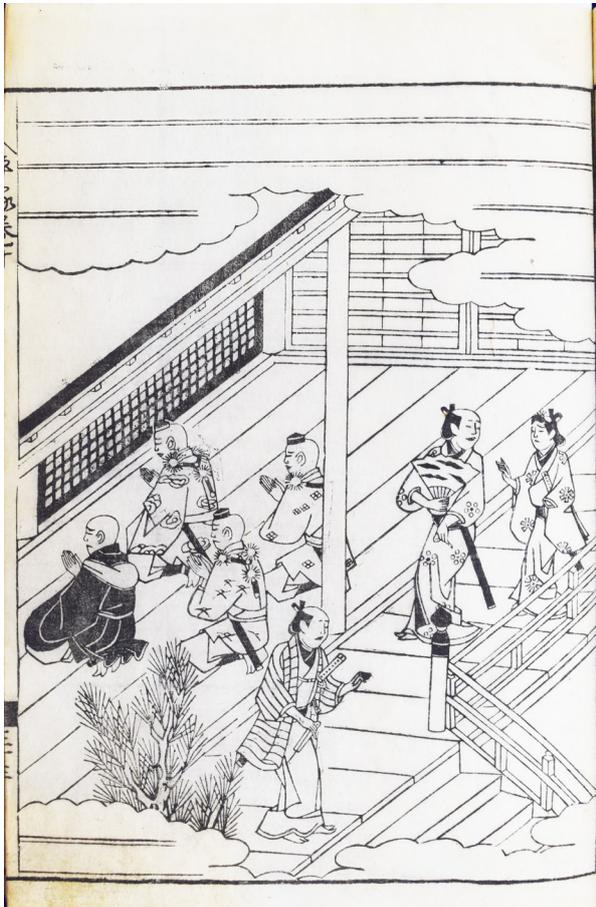
卷第1 (「祇園精舎」)

6 平家物語 12巻12冊 万治2 (1659) 年刊  
 京都の書肆である大和田九左衛門(気求、氏端。? - 1672)が刊行した版本。大和田は俳諧をたしなみ、『方丈記酒説』『徒然草古今鈔』などの自身の著書もある。本書は楷書体で記されており、現代人でも読みやすい。朱書きも多い。  
 [請求記号 ル 140-14]

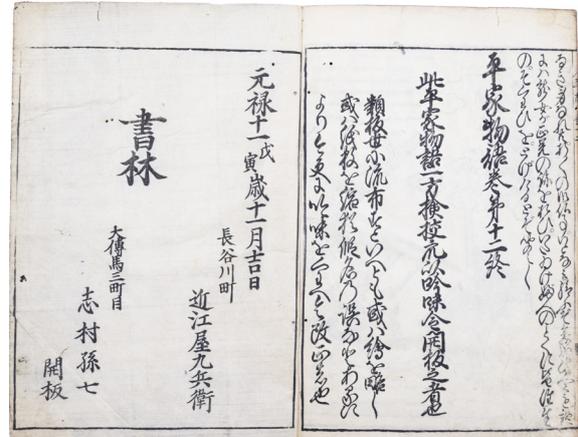
7 平家物語 12巻12冊 元禄11 (1698) 年刊  
 版元は江戸大伝馬三丁目志村孫七・長谷川町 近江屋 九兵衛。『平家物語』は江戸で出版されるようになった。本文は京都の版を踏襲しているが、挿絵は画風が異なっている。巻第10、「これもりの出家の事」の挿絵を見ると、『東叡山名所』中の江戸町人の風俗(菱川師宣画)に酷似している。  
 [請求記号 ル 140-15]



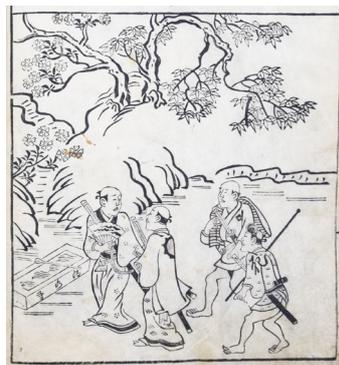
巻第1 (「祇園精舎之事」<右>および「内裏えんしやうの事」挿絵<左>)



巻第10 (「これもりの出家の事」挿絵)



巻第12 (卷末)



参考 東叡山名所 1巻1冊 天和2 (1682) 年刊  
 江戸時代前期における上野(東京都台東区)の東叡山寛永寺を紹介する名所案内記。挿絵は浮世絵師菱川師宣の画で、当時の江戸の風俗が描かれる。  
 [請求記号 貴重書 ネ 306-147]



初編上 (内表紙・松亭金水序)



初編上 (原表紙)



3編上 (宇治川の先陣争い)



2編下 (原表紙)・2編上 (原裏表紙)

8 絵本平家物語 5編5冊 天保7 (1836) -16 (1845) 年刊

江戸時代後期になると、『平家物語』は意識され、合巻によっても親しまれた。江戸両国吉川町の地本 錦 繪問屋大黒屋平吉 (松寿堂, 大平) 刊。一ノ谷の戦いを扱う第5編までが現存する。歌川国直 (1793-1854) による役者絵風の挿絵に、松亭金水 (1797-1863) が本文の訳を添える。 [請求記号 ル 156-46]

◆ 活字で愉しむ『平家物語』 ◆

附属図書館で探してみよう！

- 水原一校注『新潮日本古典集成』25・37・47 (新潮社, 1979-81年)  
中央・図情保存庫 913.43-H51; 図情1階閲覧室 2 913.4-へ; 放送大文京 913.4-H51
- 犬井善寿編『流布本平家物語』1～4 (加藤中道館, 1980-84年) 中央 913.434-I59
- 北原保雄・小川栄一編『延慶本平家物語』本文篇上・下・索引篇上・下 (勉誠社, 1990-96年) 中央 913.434-H51
- 小松茂美編『平家物語絵巻』巻第1～12 (中央公論社, 1990-92年) 中央 721.2-H51; 体芸 721.2-H51
- 梶原正昭・山下宏明校注『新日本古典文学大系』44・45 (岩波書店, 1991-93年)  
中央 918-N77; 図情2階閲覧室 918-Sa83
- 市古貞次校注・訳『新編日本古典文学全集』45・46 (小学館, 1994年) 中央・大塚 918-N77
- 麻原美子・名波弘彰編『長門本平家物語の総合研究』1・2 (勉誠社, 1998-99年) 中央 913.434-A82
- 梶原正昭・山下宏明校注『平家物語』1～4 (岩波文庫) (岩波書店, 1999年) 中央・体芸・医学 081-I95-Y113
- 福田豊彦・服部幸造注釈『源平闘諍録：坂東で生まれた平家物語』上・下 (講談社学術文庫) (講談社, 1999-2000年)  
中央 081-Ko19-1397・1398
- 麻原美子・小川栄一・大倉浩・佐藤智広・小井土守敏編『平家物語長門本・延慶本対照本文』上・中・下 (勉誠出版, 2011年)  
中央 913.434-A82

筑波大学附属図書館常設展解説シート「小特集 平家物語を愉しむ」

執筆 山澤 学 (附属図書館研究開発室員・人文社会系准教授)

平成 30 (2018) 年 2 月 1 日 編集・発行 筑波大学附属図書館研究開発室「附属図書館における貴重資料の保存と公開」プロジェクト